令和３年度　大野学園（大野中学校）　学校だより
３月１５日(火) 発行

卒業号

べにまんさく

祝 卒業

学校教育目標 「大野から高い志をもった若者を！」
スクール・モットー 「チーム」と「貢献」

〒739-0441
廿日市市大野原四丁目２番６０号
☎0829-55-2015　FAX 0829-54-0475
✉ono-j-soshiki@hatsukaichi-edu.jp
校長　岡寺　裕史

学校だよりはホームページでカラー版をご覧いただけます。

令和３年祖　第７５回　卒業証書授与式　3/14(月)

学校長　式辞（一部抜粋）

本日卒業の日を迎えた98名の卒業生の皆さん，ご卒業おめでとうございます。ただ今，皆さん一人一人に卒業証書をお渡ししました。今，皆さんの手にあるその卒業証書は，大野中学校で，今日まで，熱心に学業や運動に励み，義務教育の全てを終えたことを証するものです。三年間の中学校生活で，また9年間の義務教育の中では，嬉しいこと，楽しいことだけではなく，苦しくつらいこともあったと思います。そういう試練も乗り越えて今の皆さんがあり，この卒業証書は，そうした皆さんの努力の証でもあります。どうぞその重みを胸に感じてください。

皆さんとは1年間しか共に過ごせませんでしたが，その中でも大きく心に残っているのは，修学旅行です。8年生の時から，何度も延期を余儀なくされ，市内の半分の学校が修学旅行を中止する中，先生方と皆さんの願いが叶って，本当に奇跡的に行くことができました。残念ながらご家庭の事情等で参加されない人もいましたが，感染リスクを検討した上で当初と計画を変更し，大分，熊本での二泊三日は，特にくまモンとサプライズで会うことになる等，皆さんにとっても印象深いものだったのではないでしょうか。そして行く先々で，関係者の方々の歓迎を受け，改めてたくさんの人たちの支えによってこの修学旅行が実施できたのだと実感できたと思います。一方で，どこに行っても，「元気な良い挨拶するね」とロ々に言われたことも印象的でした。外に出て改めて，皆さんの人懐っこさ，素朴さ，温かさを感じた一幕でした。

また，体育祭も思い出に残っています。保護者の方の密を避けるには，完全学年ごとの入れ替えが必要となるので，縦割り種目の実施は難しいと思っていましたが，先生方が，縦割り種目を経験しているのは9年生だけであり，大野学園の伝統を継承していくためには，縦割り種目を実施したい，という強い思いで，小中両方のグランドを使うというアイディアを出し，あのような誰も経験したことのない形の体育祭になりました。先生方が，大野の伝統を継承して欲しいと強く願って企画した体育祭で，皆さんはその期待にしっかりと応えてくれたと思います。練習の時から，7年生や8年生に自然とアドバイスをする姿，本番で，組集団で下級生をリードしながらの応援や，最後まであきらめず「一生懸命は美しい」を率先して見せた姿など，改めて皆さんの力を感じました。そして下級生からのメッセージには，皆さんの思いが確実に下級生に伝わっていることが感じられました。大野中の伝統を繋いでくれて，本当にありがとう。

今，卒業の時を迎え，これから新しいステージに進む皆さんに，私から紹介したい言葉があります。それは「出来ることでも，出来ぬと思えば出来ぬ。出来ぬと見えても，出来ると信ずるがためにできることがある。」という言葉です。この言葉は，昭和に活躍した評論家の，三宅雪嶺氏の言葉です。

これから高校に進学していく皆さんの前には，新しい環境で，新しい友達や先生との出会いが待っています。そこでは，これまで経験したことのない学びや，楽しみや，困難さがあります。もちろん，難しい勉強もあるでしょう。そんな時，皆さんを支えるのは，「出来ると信じる」という，自分に対する肯定的な感情です。新しい壁にぶち当たったとき，「どうせ僕なんて」「出来ないに決まっている」と決めつけて，最初から挑戦しない人がいます。でもできるかどうかなんて，やってみないとわかりません。できたかもしれないことを，自分で諦めてしまうことほど，もったいないことはありません。一方でそれがとても高い壁である場合，「出来ると信じて」立ち向かうことで，最終的にできなかったとしても，人間は大きく成長します。また，奇跡的に成功する人は，たまたま成功するのではなく，「出来ると信じて」努力し続けるからこそ，高い壁を打ち破ってできることがあるんです。「出来るかできないか」は，皆さんが決めることではなく，皆さんを評価する人が決めることです。そんなことにおじけづいたり，自分をさげすんだりするのではなく，まずはやってみることです。皆さんに求められるのは，「出来るかできないか」ではなく，「やるかやらないか」です。新しい環境に身を置き，不安なことがたくさんあるかもしれませんが，まず思い切って「やって」みましょう。きっとそこから新たな可能性が開けてくると思います。

さあ、皆さん、旅立ちの時です。これまで皆さんには，始業式等で，「一歩前へ」という話をしてきましたね。今度の一歩は，大きな一歩です。皆さんの目の前に広がる，新しい世界に対して，どうか出来ると信じて，思い切って大きく一歩前に踏み出し，自分の手で未来を切り開いていくことを期待して，式辞といたします。

在校生代表　送辞（一部抜粋）

3年生の皆さんご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

今先輩方との思い出をふり返ってみると，先輩方が何度も背中を押して下さったことに改めて気づきます。不安でいっぱいだった1年生の春，部活動や委員会活動など，中学校生活の基本を，先輩方の姿を見て学びました。先輩方はいつも，私たちの味方となり，丁寧にご指導してくださいました。先輩方のあたたかさや，前向きさが私たちを支えて下さいました。

新型コロナウイルスの感染拡大により，なかなか思うように行事が行えず何をするにも制限がかかる中でも，私たちの学校生活が楽しいものとなったのは間違いなく先輩方のおかげです。　生徒会執行部のみなさんを中心に，クラスマッチなどを企画してくださったり，「シトラスリボンプロジェクト」に取り組まれたりしました。これは，コロナ禍で生まれた差別や偏見をなくし，医療従事者の方々に感謝の気持ちを届ける取組でした。校内のことだけでなく，社会にも目を向け，自分たちにできることを考え，実現させていく行動力に憧れの気持ちを持ちました。そして，二年ぶりに行われた体育祭。私たち2年生にとっては中学校ではじめての大きな行事です。先輩方が全力で取り組み，全力で楽しみ，全力を出し切った姿から全員で一致団結する素晴らしさや最高学年としてのあるべき姿を学びました。

コロナ禍だからできないと諦めるのではなく，コロナ禍の今，私たちにできることを探り，前進する。先輩方が見せてくださったその姿勢を，次は私たちが受け継ぎ，新しい歴史を刻んでいけるよう努めて参ります。

これから先輩方はそれぞれの未来に向かって歩き始めます。不安なことやうまくいかないことがあるかもしれません。そんな時は，私たちに見せてくださった諦めず前進する強さと，先輩方の周りにいる家族や先生方，そして共に過ごした仲間の笑顔を思い出して下さい。どんな事でも，乗り越えていけると信じています。

卒業生のみなさんのますますのご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げ，送辞と致します。

卒業生代表　答辞（一部抜粋）

寒さも和らぎ始め、花々の芽吹きが新たな季節の到来を告げる頃となりました。このような佳き日に私たち98名はこの大野中学校を卒業します。

新型コロナウイルスの感染拡大のため、多くの行事等が中止される中，私たちのために卒業式を挙行していただきますこと，卒業生一同，心より御礼申し上げます。

こうして，卒業式を迎えた今となっても3年前の入学した日を，鮮やかに思い出します。

1年生，希望に胸を膨らませ，大きな制服に身をつつみ，入学しました。まだ聞き慣れない校歌を聞いているうちに，次第に「中学生になったのだ」ということを自覚しました。夏には体育祭・秋には学園祭と目まぐるしく過ぎていく日々についていくのが必死でした。先輩方の背中は大きく，私たちを優しくリードしてくれました。また、今ではできなくなった縦割り掃除などの小学生や学年を越えた交流の時間はとても貴重な時間でした。

新型コロナウイルスが流行し，1年生の3月に休校になりました。2年生に進級しても，当たり前の日常を奪われ，学校に通えない毎日が続き，いつもそばにいた友たちの存在・先生方の存在の大きさに改めて気付かされました。また，そのような状況でも，様々な職場で働く方のご協力のおかげで実施された職業体験は，将来に対する視野を広げ，私たちの進路を見据える良い機会となりました。

3年生，何回もの延期の末，ついに実現できた修学旅行。私を含め，行くことがかなわなかった人もいましたが，中学校生活の大きな行事ができたことは，3年生の学校生活に大きなはずみをつけました。また，1年ぶりに開催された体育祭。皆で団結して行った体育祭は，本当に楽しかったです。見に来てくださった方々の笑顔も印象に残っています。コロナ禍の今だからこそ，皆で団結して行う行事に，特別感を味わいました。リトルティーチャーでは，先生方が毎日授業を行うことの大変さを知りました。たくさん考えて練習し，臨んだ授業では，大きな達成感が得られました。そして，自分を信じて挑んだ，受験。皆が不安の中で励まし合い，助け合い、乗り越えてきました。いつも、隣にいる友たちに背中を押されると，自然と自信が湧きます。みんな，それぞれ，自分を信じてここまでやってきました。私は，将来に繋がる大きな一歩を皆と前進できて，よかったと心から思います。

そして，今日まで私たちの傍に寄り添い，いつも味方でいてくれた,家族。たくさんの迷惑や心配をかけてごめんなさい。毎日，仕事で大変な中，習い事の送迎や家事など，本当にありがとうございます。私はこの3年間で家族の存在の大きさに気づくことができました。コロナで学校に行けず辛いときや，部活や習い事がうまくいかないとき，そして，進路に向け不安な毎日を過ごす中，お父さんお母さんは私たちの一番の理解者として，優しく見守り，支え続けてくれました。それにどれだけ安心していたか，頼りすぎていたか，ということに気付きました。また，時には，ぶつかり，厳しい言葉を投げかけられることもありましたが，今では，私たちのことを思うからこその言葉だということがわかります。本当に感謝しています。未熟者の私たちなので，まだまだご迷惑をおかけすると思いますが，これからも自分らしく目指す目標に向かって前進していきますので，温かく見守ってください。↗

この大野中学校で共に生活を送ってきた9年生の皆さん，いままで本当にありがとうございました。新しい学校生活が始まり不安を抱える私に，声をかけてくれた友たち，勉強を教えてくれた友たち，委員会の仕事を手伝ってくれた友たち，応援してくれた友だちと，この学校には友たち想いの生徒ばかりです。また、多くの困難を乗り越え，共に成長できたのは，まぎれもなく，友たちの支えがあったからです。皆さんとは，長い間，共に学校生活を送り，常に隣にいるのが，当たり前だったために，離れてしまうことが信じがたいです。皆さんとの出会いは，私の中でとても実り豊かで，過ごしたすべてが素晴らしい思い出です。本当にありがとう。

最後に，改めて私たちを支えてくださった方々全てに卒業生一同心より御礼申し上げます。また，大野中学校のさらなる発展を祈念し，答辞とさせていただきます。

1組

2組

3組